

『仕事ができる人、うまくいく人から学ぶ』

—生活の質を高める習慣—



高井法博会計事務所
TACITグループ関連11社 代表
税理士 高井 法博

世の中の「仕事ができる人、うまくいく人」には性格、考え方、能力、行動に

「まずは机上の整理から始めよう」「すぐやる」

いくつかの共通項、習慣がある。傍目には、大変な仕事を適切かつ、迅速にこなす、成果をあげ、それでいて読むべき本を読み、見るべき映画やテレビも見ている。反面、大多数のビジネスマンは時間が足りない、やるが多すぎると、ほとんどの時間を書類の山に埋もれて過ごし、結局やり切れず、中途半端な成果で悔しい思いをしている。

「人間は習慣の生き物」である。仕事ができる人、うまくいく人は、良い習慣、癖が身についている。ほとんどの人が解っている、実際に習慣を変えるのはとても難しいと言いつつまでもその習慣を改めようとしないう。こういう態度ではいつまでたっても、できない人、うまくいかない人で人生を終えることになる。これこそ悪い習慣であり、これを断ち切つて「先延ばしをしないですぐやる」良い習慣を身につける必要がある。

私の座標軸の一つに「実践行動こそ全て」がある。常に意識し、極力「すぐやる」癖を体に叩き込もうと意識している。これを具体的に身につけるために、身近な事例を取り上げたアメリカの能力向上コンサルタントの指導手法を入手したので、概略を紹介したい。

このコンサルタントは指導依頼を受けると、真っ先に依頼人の机上を掃除させる。実際にその人の席に行き、机上の細々したものの書類を全てチェックする。書類を一枚一枚手にとって、その内容を相手に尋ねる。相手は「返事を出そうと思っているものです。」と答え、どこかにその書類を置こうとする。そうして次のようなやりとりとなる。「ちょっと待ってください。なぜそこに置くのですか。」「やらなきゃならないものだから、ここに置くのですよ。」「今、すぐやることにしましょう。」「すぐにですか。ちょっと

ない。

最初、書類を読んだ時に返事を出せば、「すぐにやれば」、時間も節約できるうえに、社内外にスピードをもって対応でき、業務を果たしたことになる。

以上はほんの一例であるが、意識して良い成功ノウハウ、成功哲学を身につけ、行動に移し、習慣化し、生活の質（クオリティ・オブ・ライフ）を高めていたのだと思う。

当事務所にある「二十五年間カレンダー」の冒頭に次のような詩が書かれている。「きょうも無為のうちに一日が去っていく。例のとおり繰り返さず……あすも、その翌日もぐずぐずと……ぐずぐずは優柔不断のなせるわざ……毎日が恨みのうちに消えていく……君は真剣に求めるのか！この貴重な瞬間を……始めるのだ」

(ゲート)



岐阜市 細江茂光市長と